

平成 17 年度 海岸工学委員会 第 2 回幹事会 議事録（案）

日時：平成 18 年 4 月 13 日（木） 14:00～17:00

場所：土木学会 A 会議室

出席者：喜岡委員長，佐藤幹事長

青木，泉宮，磯部，今村，岡安，木村，栗山，後藤，小林，榊山，重松
柴山（代理：佐々木），清水（代理：関本），高木，武若，中野，中山，灘岡
橋本（代理：吉田），福濱，藤原，間瀬，横木，熊谷（事務局），（敬称略）

議事

1．前回議事録の確認

2．内規の修正（福濱委員）

調査研究部門会議からの修正要請を受けて，内規のなかの存続期間や委員会の運営（事業計画など）に関する項を追加・修正した．内規細則（定員）は変更無し．

3．海岸工学委員会委員の交代（佐藤幹事長）

国総研 栗城委員→大平委員

旧開発土研（現土研） 窪内委員→山本委員

関西地区 出口委員（大阪大学）→荒木委員（大阪大学）

4．幹事の追加（佐藤幹事長）

次年度の海講開催担当者を幹事として追加する．今年度は宮崎大学の村上委員．新内規施行後委員長指名幹事として．

5．学会賞の推薦（佐藤幹事長）

来年度からは「海岸工学論文賞」も創設されるので，戦略的に推薦する予定である．

6．第 52 回海岸工学講演会報告（藤原委員）

懇親会出席者数 190 名，記帳者数 530 名．

7．委員会評価・予算額（佐藤幹事長）

海岸工学委員会は A 評価を受けた．ただし，A 評価を受ける委員会が増え，C 評価を受けた委員会が無くなったため，海岸工学委員会の予算は昨年度に比べて 1 割減となり，来年度は 146 万円である．

8. 小委員会活動報告

(1) 広報小委員会(岡安委員)

土木学会重点研究課題へ応募した。課題名は以下の通りである。

海岸防災・利用の調査研究における市民とのインタラクティブ研究モデルの開発
—津波防災を例に—

研究メンバーは広く募集したい。

(2) 沿岸域研究連携推進小委員会(青木委員)

利用面での研究推進のためにメンバー増やす予定である。

今年度は利用に配慮した設計のガイドラインの検討と啓発活動のためのパンフレットの作成を行う予定である。

沿岸環境関連学会連絡協議会の活動を海岸工学委員会のホームページからたどれるようにする。

(3) 津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会(今村委員)

第5分科会を立ち上げ、3月にワークショップを開催した。

今年度、教育啓蒙マニュアルを作成する予定である。また、海岸工学講演会翌日のシンポジウム「南海地震津波に生き残るために(仮)」を支援するとともに、巨大地震災害への対応検討特別委員会と共同で、静岡市中島処理場におけるケーススタディを行う。

9. 水工学夏期研修会(小林委員)

今年度は、水理委員会が担当で、岐阜大学で開催される。

案内は学会誌に掲載され、その時点で土木学会のホームページにも掲載される。

昨年度は申し込みの案内がわかりにくかったので、今年度は海岸工学委員会のホームページからも申し込み方法がわかるようにして欲しい(佐藤幹事長)。

参加者の確保が課題である。ホームページ経由で案内なども合わせて行う予定である。

10. CEJ(佐々木委員代理)

6月に津波特集号を発行する。

出版のための補助金を今後いかに減らすか、また、財源をどうするかが問題となる。販売数をもう少し伸ばせば支払い額は半分になる(佐藤幹事長)。

次回の幹事会で販売数(国内、国外)などの状況を報告していただきたい(佐藤幹事長)。

11. 土木学会論文賞(吉田委員代理、後藤委員)

「総合題目」が廃止され、単一論文のみを対象とする。新選考方法は、来年度に告知さ

れ、再来年度から実施される。奨励賞に関しては、総合題目は残すけれども、基本は単一論文の筆頭著者となる。

12. APAC2007 (喜岡委員長, 灘岡委員)

南京において 2007 年 9 月 21 ~ 24 日に開催される。Abstract の締め切りは 2006 年 12 月 15 日である。

灘岡委員が Steering committee のメンバーになっている。Steering committee にフィリピンやインドネシアの代表を加えることが検討されている。

APAC2009 はゴールドコーストが候補になっているけれども決定はされていない。

13. Coastal Dynamics 2009 (佐藤幹事長)

2009 年 9 月の第 2 週に東京で開催予定である。水口前委員長が Steering committee のメンバーになっている。

14. 第 53 回海岸工学講演会の準備状況 (中野委員)

阿南市文化会館および阿南市富岡公民館 (2 階でつながっている) で開催される。

第 3 会場と第 4 会場の遮音性が悪いけれども、当初の予定通りに開催する様子を見て、スピーカーの向きや音量を調整する。

展示を希望する企業は 9 月ぐらいに決定される予定である。

支出は 250 万円以下に抑えて頂きたい (事務局)。

宿泊・交通の案内 (JR 四国作成) は委員会のホームページから見られるようにしたい。

15. 第 54 回及び第 55 回海岸工学講演会の開催

(1) 第 54 回海岸工学講演会 (吉田委員代理)

会場を宮崎観光ホテルに変更した。講演会場 5 部屋の確保が可能であり、学会の開催経験もある。会場の詳細は次回報告する予定である。

(2) 第 55 回海岸工学講演会 (佐藤幹事長, 泉宮委員)

北陸を一つの候補として調整を進める。

16. 第 53 回海岸工学講演会 (海岸工学論文集第 53 巻) 応募論文審査 (佐藤幹事長, 間瀬委員, 後藤委員, 重松委員, 武若委員)

査読方法の再確認

査読小委を廃止し編集小委に一本化した。編集小委員会のメンバーは幹事会構成員とそれ以外のメンバーである。主査制を導入する。主査 = 幹事, 副査 = 編小委非幹事 + その他

第一段査読者

専門性を考慮して査読者を選定した。

査読者は 94 名、22 編/人

投稿論文数は 418 編、そのうちの約 2 割の PDF ファイルに著者情報が含まれていた。

18 点以上の 294 編を第 1 次査読採択とする、採択率 70.2%。(資料 1、資料 2)

第二段審査

5 / 22 14:00 ~ 編集小委員会開催 査読方法の最終確認

第二段査読論文数の目安 主査 14 編、副査 1 17 編、副査 2 9 編

5 / 31 査読締め切り

6 / 7 主査が査読結果を確認

修正レベル D については編集小委員会で確認する。

副査が不採択であっても主査が採択にすることは可能である。また、副査から報告書が提出されなくても主査が採択、不採択を判断できる。

6 / 15 査読結果通知予定

修正レベル B: 10 日以内に修正原稿提出。

修正レベル C: 15 日以内に修正原稿提出。修正原稿に対して主査が A か D を判定する。再査読は 1 回

7 月末までに査読完了。8 月初めから著者校正開始。

著者の所属表記方法: 今年度から右肩付きの括弧なしの数字とする。

英文タイトル、英文アブストラクト

2008 年 4 月から論文集に義務づけられる。海岸工学論文集における導入は 2007 年以降に検討する。その際には、おそらく日本語アブストラクトを外すことになるであろう(佐藤幹事長)。英文アブストラクトのチェックが問題になると思われる(喜岡委員長)。

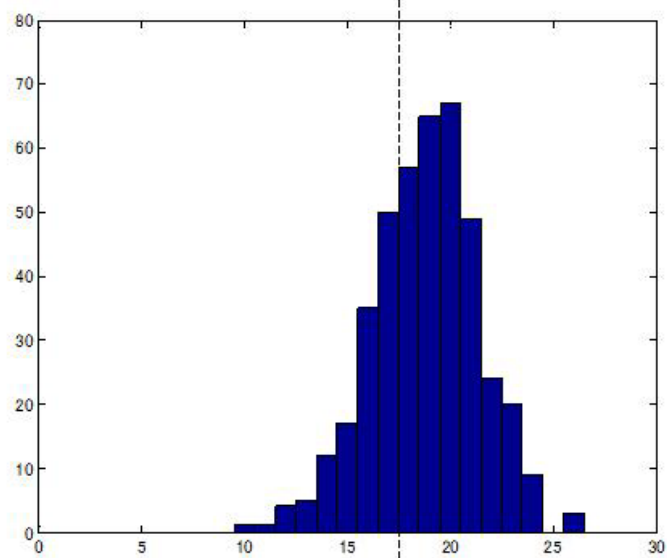
現在、キーワード検索に日本語アブストラクトを使っている(小林委員)。日本語アブストラクトを廃止する場合には、全文で検索を行うか、キーワードの欄を設けることで対応することになるであろう。

別刷は 50 部で 8000 円である。論文集の値段に比べると高いが、著者負担金を考えると妥当であろう。昨年度は、291 編中 260 編の注文があった。

(議事録作成 栗山委員)

論文ごとの総点数分布

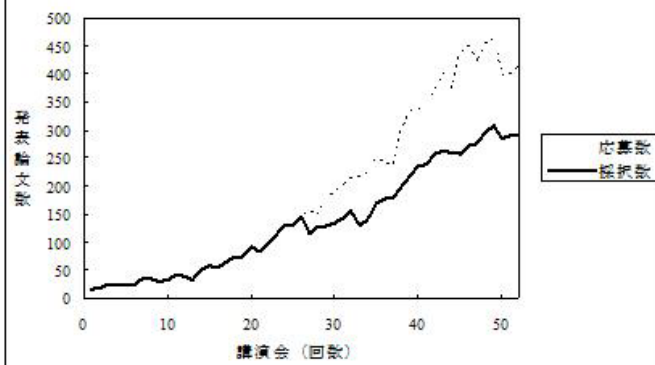
418編中18点以上294編



17点以下の論文には
「6点」なし

18点の論文には
「6点」あり,
18点以上に「1点」なし

資料 1



採択率
53 70.2%
52 70.6%
51 71.7%
50 66.7%

